

イ「交通事故」の事例

車両停止の合図が遅れ、急ブレーキを踏ませてしまった

▶ 状況

夜間の道路工事現場で車両誘導警備を行っている A さんと B さんは、片側一車線を規制する工事のため、トランシーバーを使用した車両誘導を行っていた。A さんは、B さんから車両を誘導した報告を受け、前方から来る車両に停止の合図を出そうとした。しかし夜間勤務の疲れから車両に気づくのが遅れ、停止の合図が遅れてしまったため、急ブレーキを踏ませてしまった。

▶ 主な原因

- ✓ 車両停止の合図を出すのが遅かった。

▶ 主な対策

- ✓ トランシーバーを使用した車両誘導の際は、特にゆとりを持って合図を出すよう心掛ける。
- ✓ 人員配置を考える際は、勤務環境や勤務時間を考慮し、適宜休憩が取れるように計画する。

道路工事中のパワーショベルにひかれそうになった

▶ 状況

道路舗装工事現場で車両誘導警備を行っていた A さんは、パワーショベルの後方で車両誘導を行っていた。工事作業中のパワーショベルが、後方をよく確認せず発進してしまったが、A さんはパワーショベルの接近に偶然気づき交通事故を回避することができた。

▶ 主な原因

- ✓ 工事関係者との連携が密に取れていなかった。

▶ 主な対策

- ✓ 工事関係者との打合せや声掛けを積極的に行い、コミュニケーションをとる。
- ✓ 工事車両の移動範囲を把握しておく。その際は、予期せぬ動きがあることについても想定しておき、十分気を付けて行動する。